学校だより

かわい

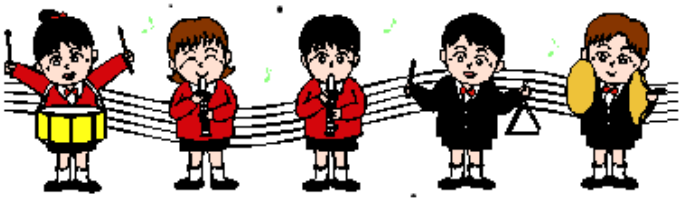
令和4年10月31日

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/

共感する力

副校長　西原　千輪子

秋も深まり、日によっては上着が必要となってきました。新型コロナウイルス感染症もほんの少し上昇傾向となり、相変わらずの物価高が厳しい情勢ですが、川井小学校の児童は今年度は工夫しながら行事を行うことができて、明るく元気に過ごしています。去る１０月２２日（土）は５０周年かわいっ子音楽会と、合わせて第２回学校運営協議会が行われました。

１年生は「くじらぐも」の歌、教科書の物語にとても素敵な歌を付けています。くじらぐもと子どもたちに分かれての朗読、練習を重ねるごとにどんどん心をそろえることができてきました。空に向かって自由にのびのびと歌い、最後の掛け合いが心に響き、その可愛さに感動し、涙が浮かんできました。1年生と一緒に空の旅ができました。2年生は「切手のない贈り物」と「星に願いを」の演奏です。トーンチャイムのきれいな響きと共に、打楽器の太鼓とスレイベルが正確にリズムを刻んでいました。「Yume 日和」の合唱はこぶしのようなリズムを合わせて、そろって歌うことができました。体の奥から声が響き、体育館を通して伝わって、安定した発表で、明日また幸せなことが起きるというメッセージが伝わってきました。3年生の「帰りの会のサンバ」はリズミカルな歌で、前向きで明るい歌声が素敵です。「聖者の行進」の合奏は、音が少しずつ重なっていき、最後は３９人の演奏とは思えないほどのボリュームがありました。特に木琴・鉄琴の子どもたちは、強くたたくのではなく大きく響かせる弾き方を練習して身に付けました。また、途中の打楽器のソロプレーが移っていく部分が、粋な感じでした。４年生の「きぼうのうた」はソロを歌う子たちの声の良さが目立ち、みんなの笑顔と歌声が揃っていました。「第九メドレー」の合奏は個性豊かな楽器と子どもたちが、心地よく少しずつクレッシェンドしながら重なり、盛り上がっていきました。後半はステージ上の打楽器部隊が加わって、かけ声やジェスチャーもテンポを上げながら、まるで体全体が楽器になって音楽との融合を見せているようでした。それぞれが少し高い目標をクリアしてこの演奏に到達しました。その分みんなと心を一つにして、とてもポップで楽しい、４年生ならではの第九の演奏となりました。5年生は「大切なもの」の合唱。友達と離れてしまってから気付いたけれど、ずっと変わらないというメッセージが、しっとりした歌声とともに耳に染みてきました。「サウンドオブミュージックメドレー」はシンセサイザーやアコーディオン等なかなか年齢的にできない楽器を使いこなしていました。ステージ上の打楽器精鋭隊は実は裏打ち、動きと逆に打てるのは彼らだけでしょう。しかしここまで到達する過程は、登山をするようなもので、少しずつ上手になり、パートごとの聴き合いで意見交流しながら高めあってきました。最後の場面ではミュージカルを見ているかのような演奏と表現の一体化が見られました。尊重しあえる５年生に成長していました。６年生の「虹」の合唱は、伴奏から指揮まで子どもたちの力で発表しました。頭声的発声の中で、喜びや悲しみ、分かれ、出会い、といった複雑で切ない感情の表現は６年生ならではです。そして、言葉にならないほどの圧巻だったのが、「木星」の合奏です。メロディーが次々に他の楽器に移っていくときの誇らしさが伝わってきました。途中からの編曲では、旋律を弾くことと足で床をたたくことを同時に演奏できるアコーディオンや木琴の子たちの能力が卓越していました。そしてメロディーとしてまとまってきたところに唐突にコンガ隊の打ち破るような３連符の入ったダダダ　ダダ、というリズム、、、人はいい音楽を聴くと怖くもなるものです。そしてなぜこの演奏がこれほど感情を揺さぶるのか。とても不思議な大きな惑星である「木星」、それに匹敵する演奏に畏敬の念さえ、覚えました。

川井小学校の大事な音楽会をお世話になっている学校運営協議会、学援隊の方々、学年ごとでも保護者の皆様にお見せできて嬉しいです。低学年は根気よく練習を重ねることで、友達と合わせる気持ちよさを感じてきたのではないでしょうか。高学年は、互いの音を聞きあって主役の人を目立たせることだけでなく、互いの演奏の気分を感じたり、相手に合わせて強弱やタイミングを決めたり、共感する力を身に付けた結果がこの素敵な発表会につながったと思います。これまでのご協力ありがとうございました。